

シスター・サラ

本当に一人で
大丈夫ですか

神父様！



ご心配には
及びません

二日で
戻りますので

私はサラ
この教会でシスターとして
暮らしています

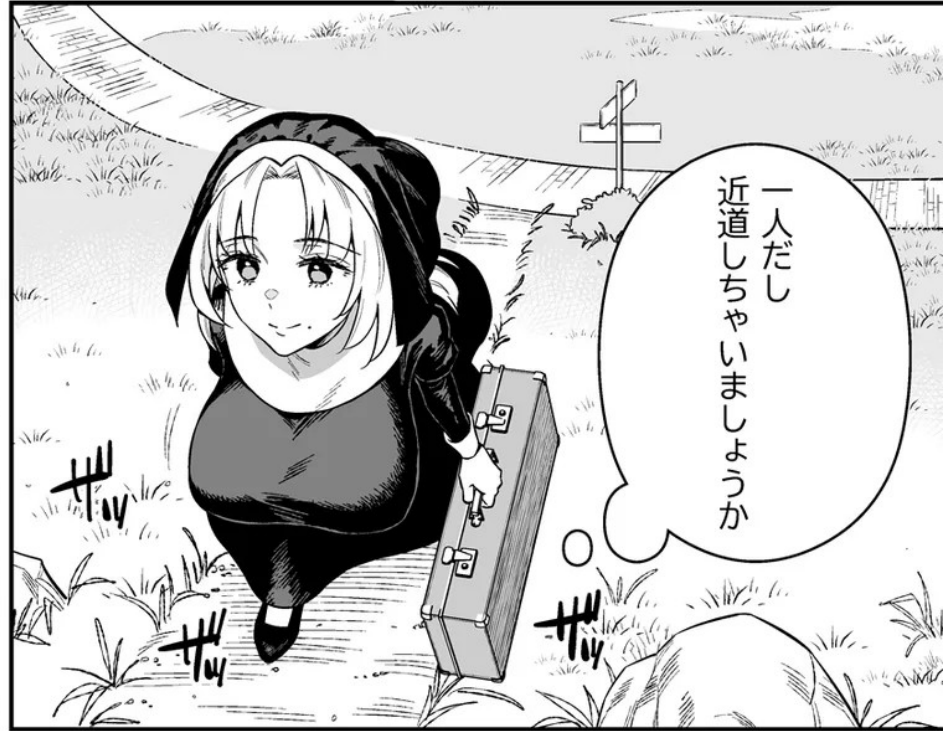
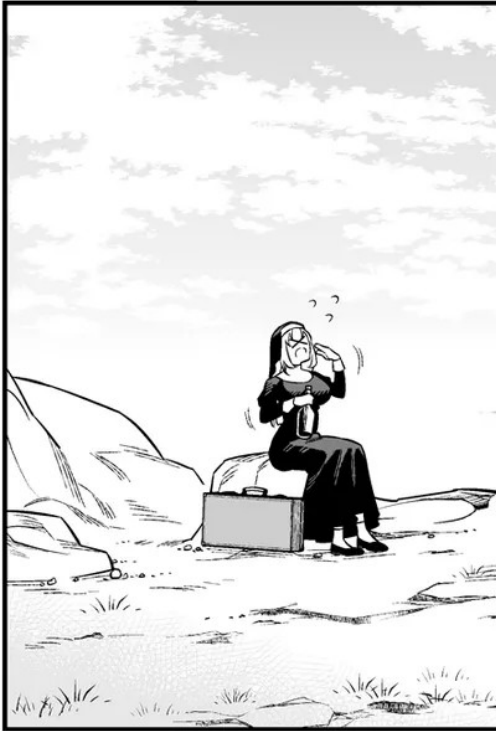
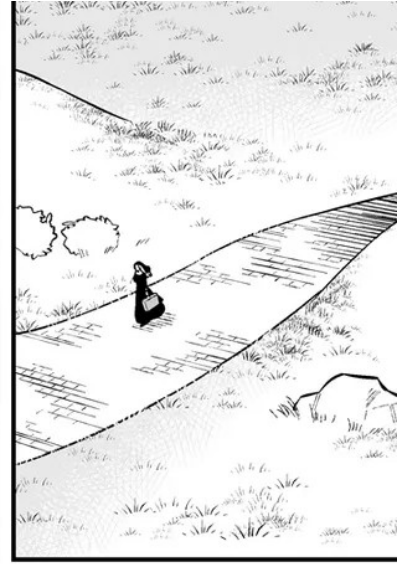
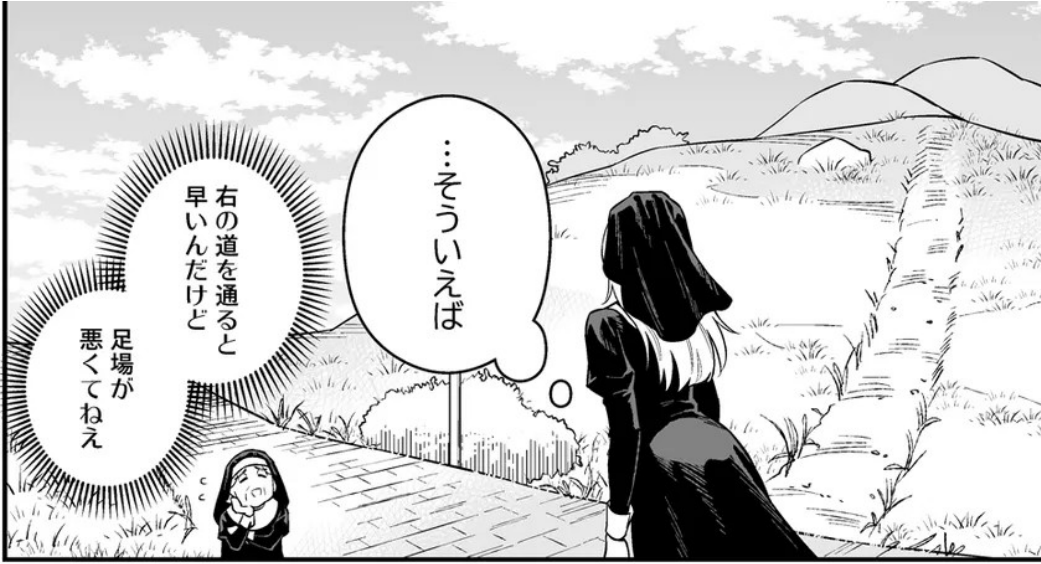
以前は他の
シスターと一緒にいたが
足を悪くされてしまい

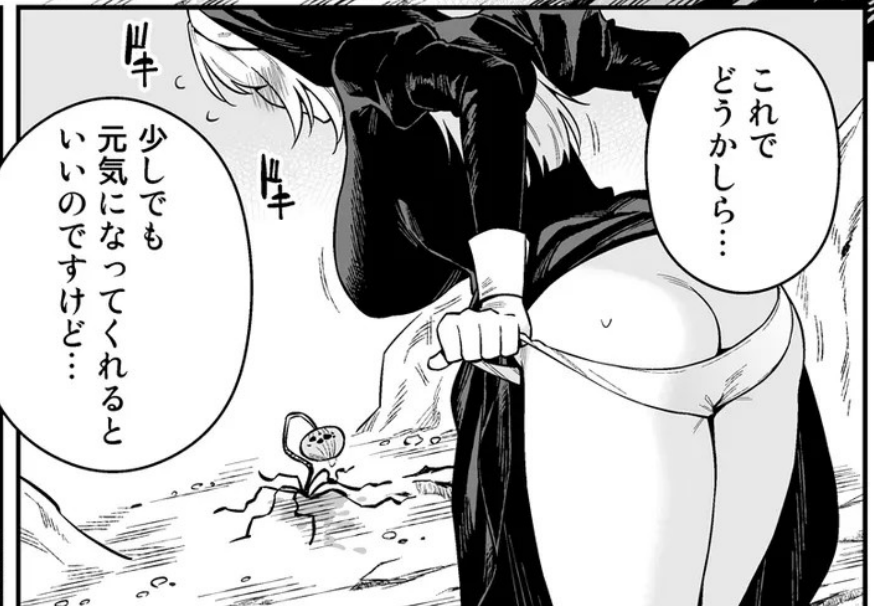
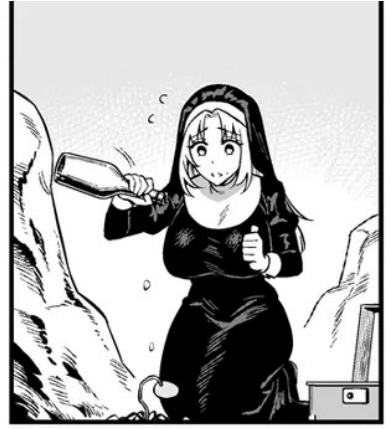
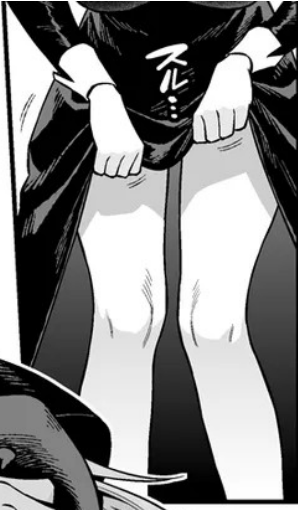
初めて一人で
伺うことになりました

今日は
隣村の子供たちに
勉強を教えに行く日です

膝がねえ
どうにもねえ



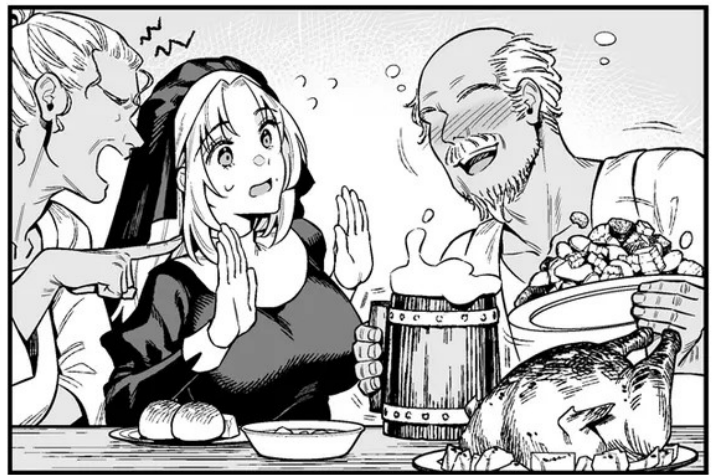
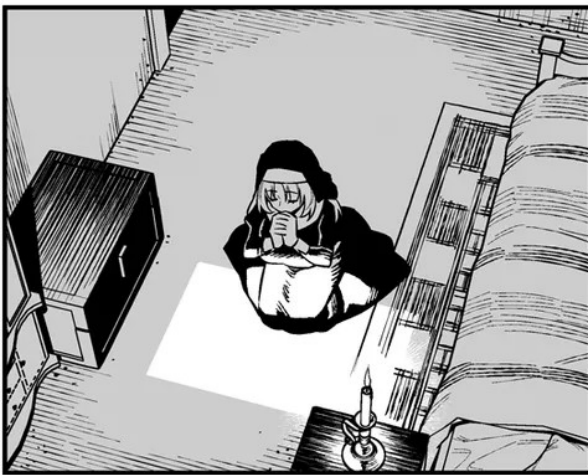


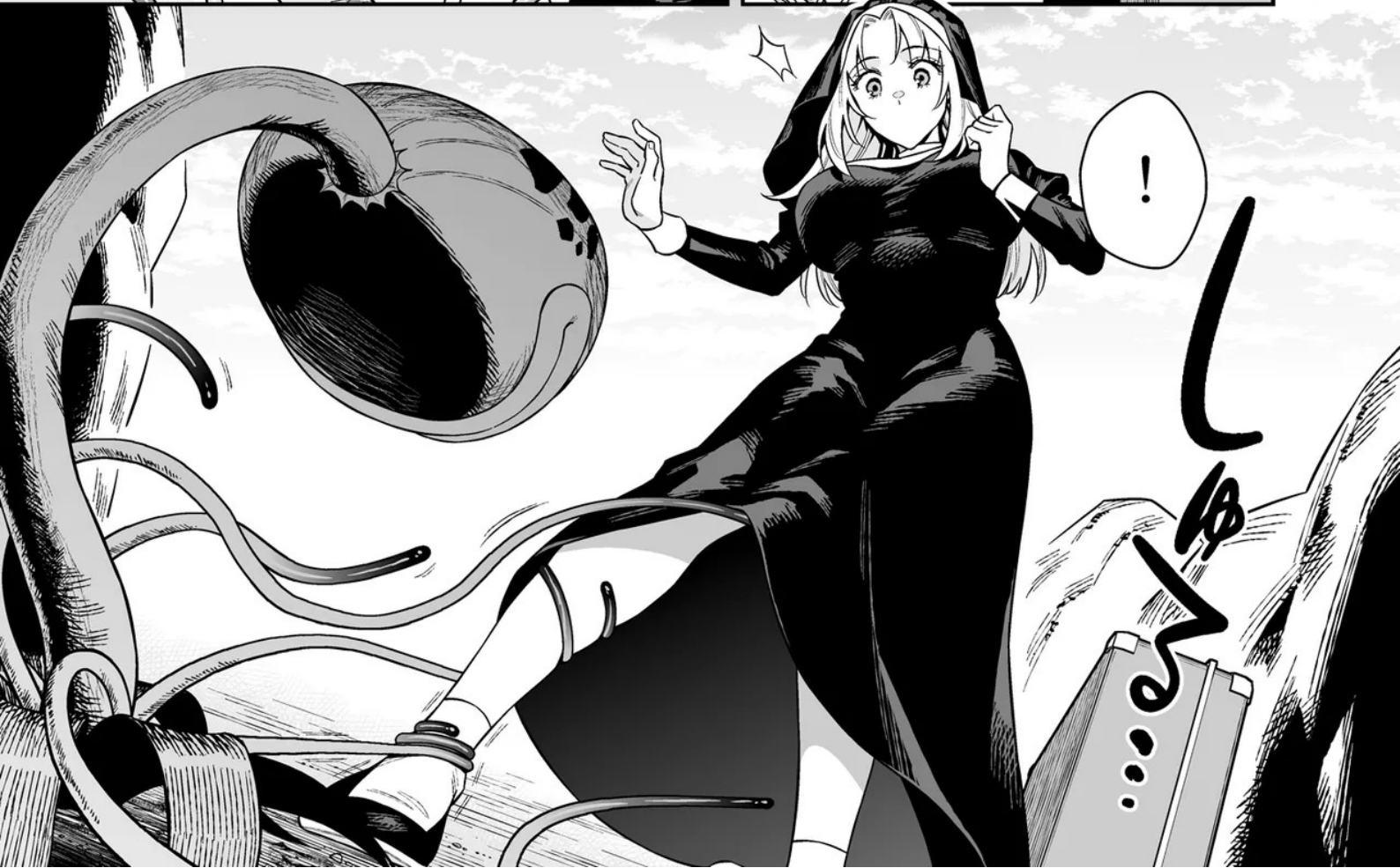


少しでも
元気になってくれると
いいんですけど...

これで
どうかしら...









そんな...

み水じゃ
だめなんですか...?

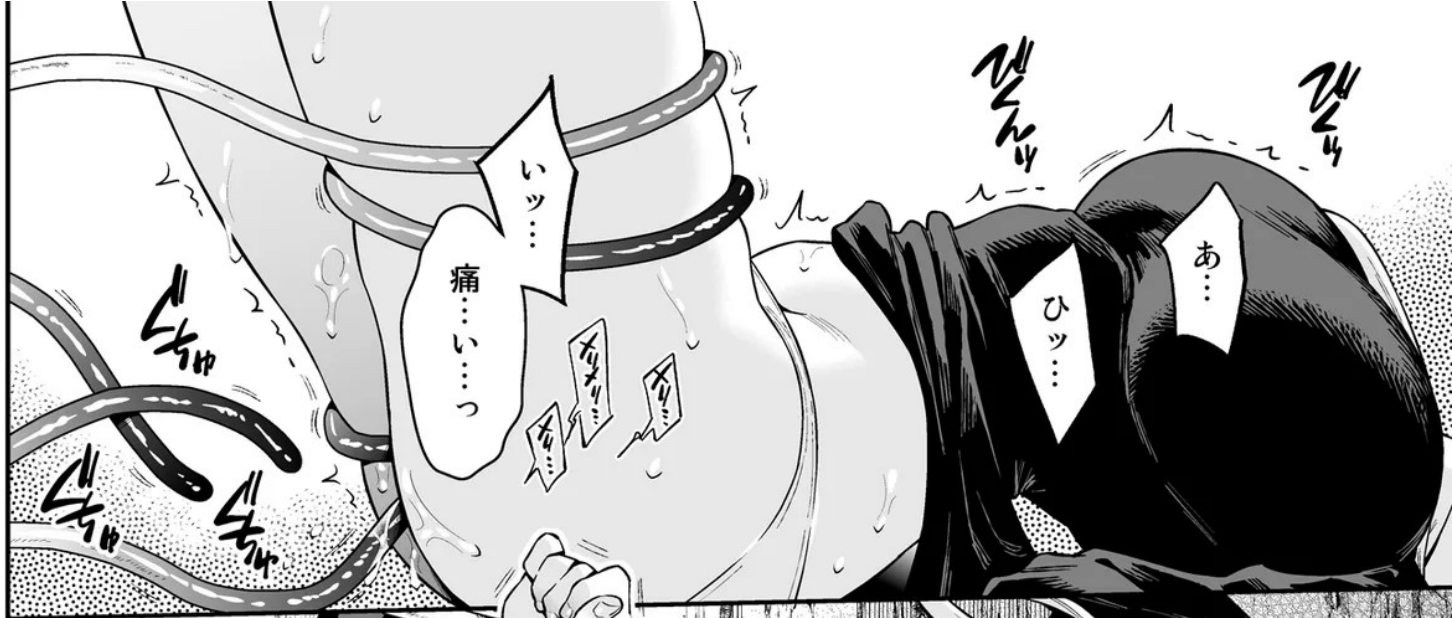


フムフム...

フムフム...

フムフム...

フムフム...





ああ…神よ…

わたしは…

このまま
死ぬのでしょうか…



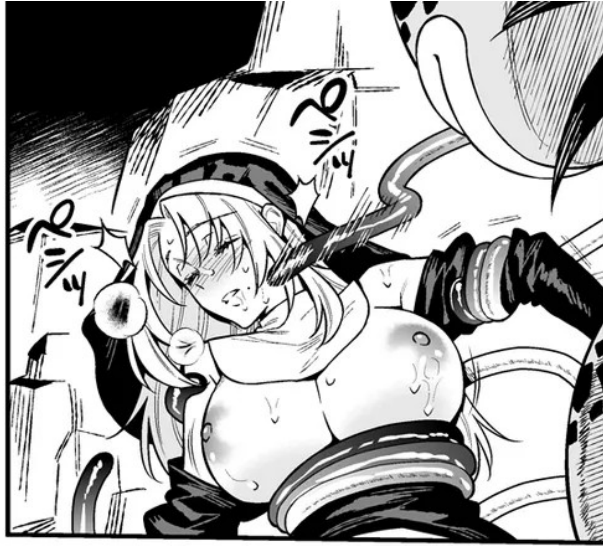
力が…

入らない…



もう…

目も開けて
いられないほど…





口の中が
甘くべたつく…

まだらちゃんに
何か…

飲まされてた
みたいけど…



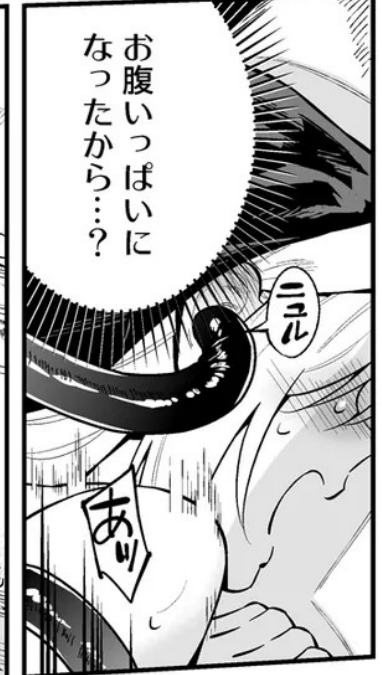
こんなに
大きくなるなんて…

…おぼろげに…

…おぼろげに…



…おぼろげに…

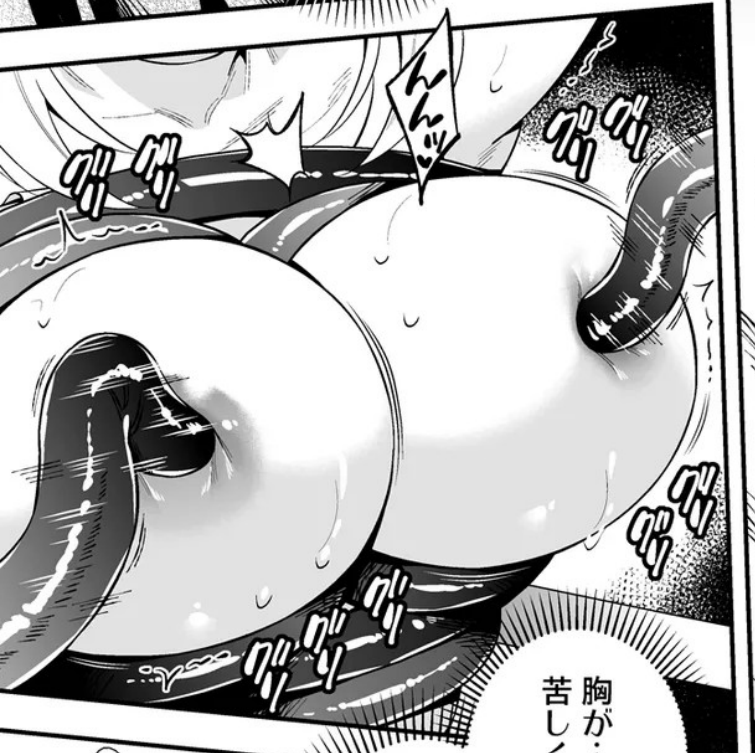






ああ…
神よ…

どうか
お許しを…



胸が…
苦しくて…

張り裂けそう…っ



いいえ…
もっとして
欲しい…!

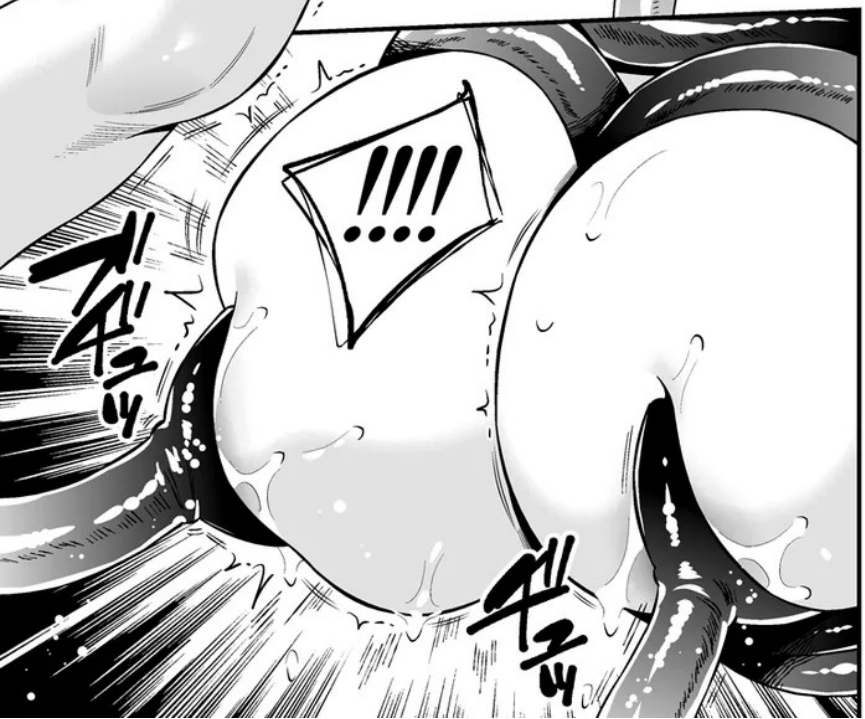
わたし…
姦淫の快楽を
知ってしまいました…

もう言い訳
できません…



え...!?
なぜ...!?

私の身体
どうなって...



!!!



すっ…
吸われてる…ッ

ああッ

グッ



私のお乳が…
まだらちゃんに…ッ

ッ…なに…
この感覚…

私そのものが…
流れ出ていく
みたい…ッ



あ…ッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ



混ぜて…



ひっ…



一つに…
なる…ッ



私が
まだらちゃんの
中に入って…

溶けて…



授乳時に
分泌される
オキシトシンは

母体に
多幸感・恍惚感を
もたらす

相手への愛着を
促進する働きがある

私のお乳を飲んだ
まだらちゃんは…

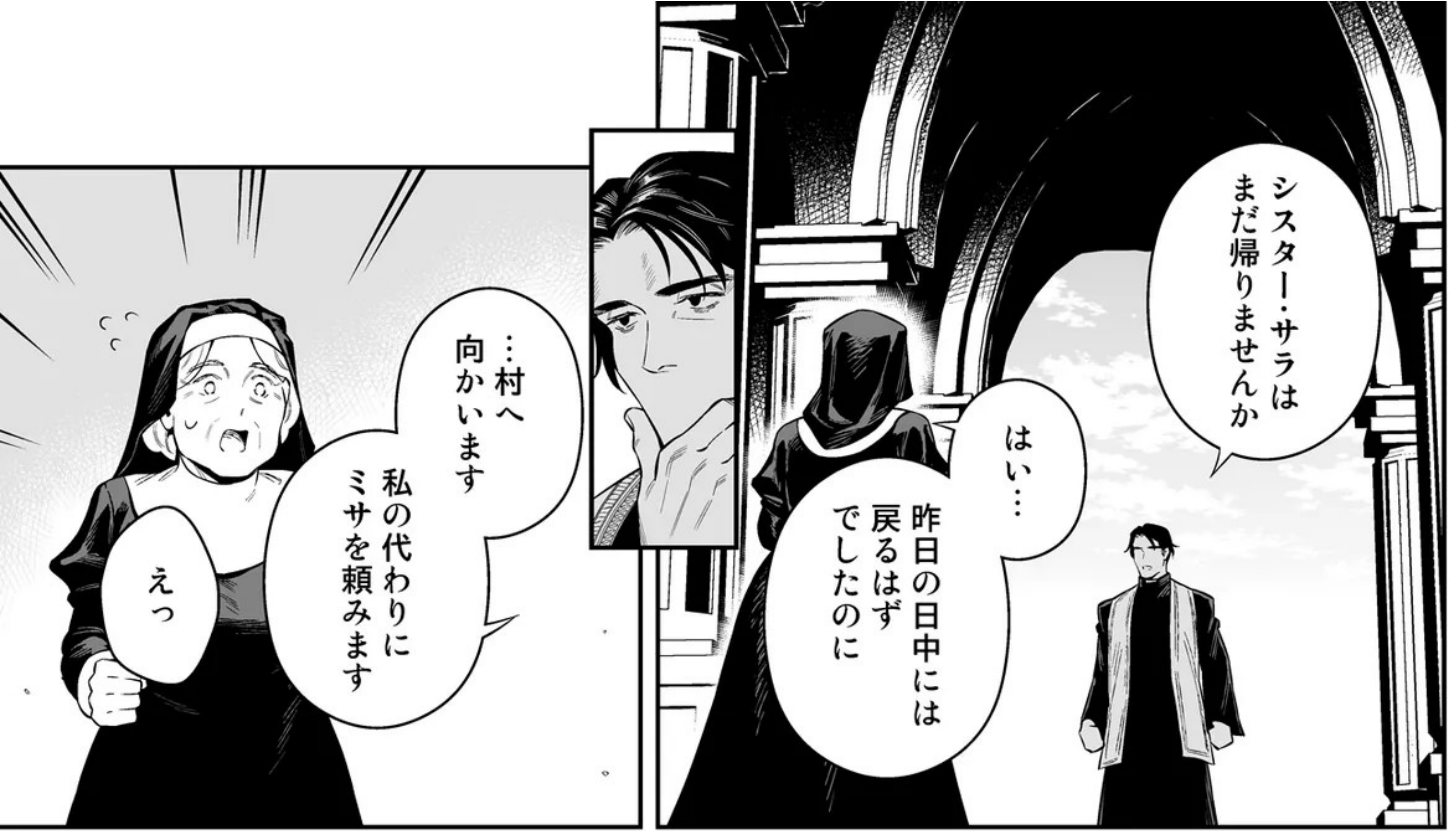
私の子
なのでは…？

つまり…
私は…

この子の母に
なったのでは…？

これは
姦淫などではなく

尊い愛の行為なのでは



シスター・サラは
まだ帰りませんか

はい…

昨日の日中には
戻るはず
でしたのに

…村へ
向かいます

私の代わりに
ミサを頼みます

えっ



騎士

すまないが
行先の変更を

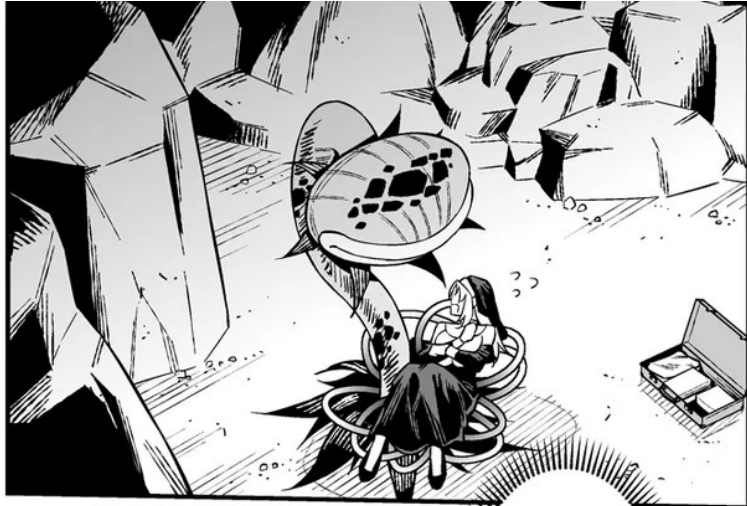
神父様

今日は会合の
ご予定じゃ…



そんなもの
どうとでもなる





早く…

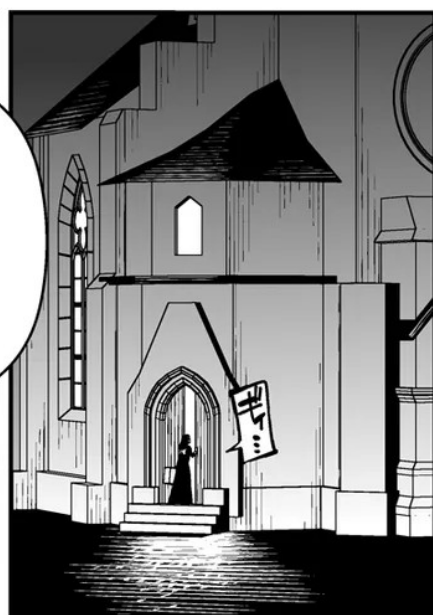
早くここから
離れなくては…!!



神父様…

ずいぶん
遅かったでは
ないですか

シスター・サラ…!?





なかなか寝付けないだけで…



…体が…その…
火照ってしまった

急いで帰ってきたから…



いえ…
そんな
神父様にお話しするほどのことではありません



…そうですか



いい夢を
シスター・サラ



落ちて着けるよう
温かい飲み物を
用意しました
これだけでも
受け取ってください



ここに居るのを
誰かに見られたら

神父様でも
咎められて
しまうのに…



ギィ…

もういない…



…今日の

まだらちゃんとの
“あれ”は



よほど心配させて
しまったんですね…

…おいしい

甘くて
とてもいい香り



姦淫

…そういうものでしょう…

神の教えにおいて
姦淫は大罪です…

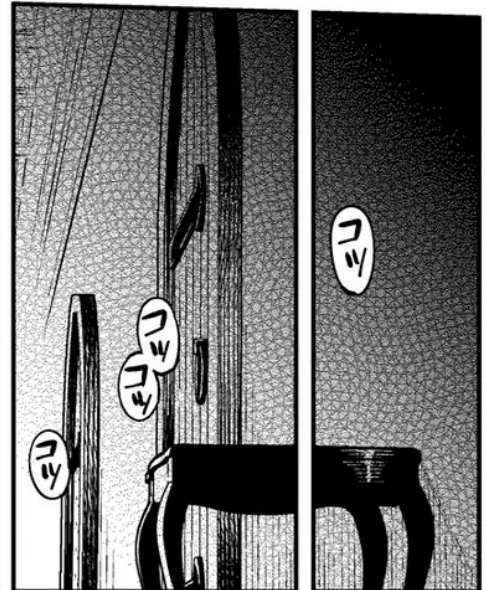
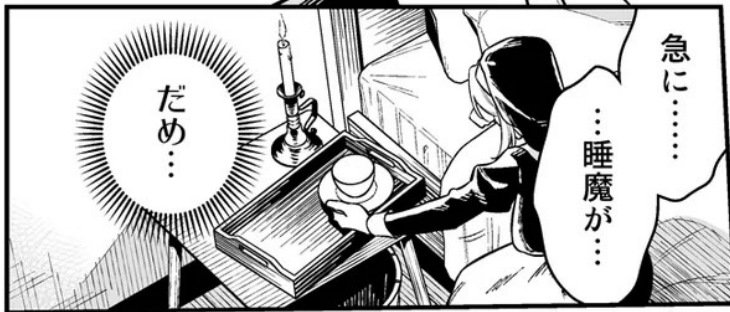
まだらちゃんが
食事のつもり
だったとしても…

私にとっては…

ワグン

ワグン

ワグン







しかし
神父として…
また養父として

あなたの全てを
把握しておきたい

ギョッ



…初めて私に
嘘をつきましたね

サラ

あなたも
大人になったという
ことでしょうか…



隅々まで
検^{もた}めていきますよ



これは…

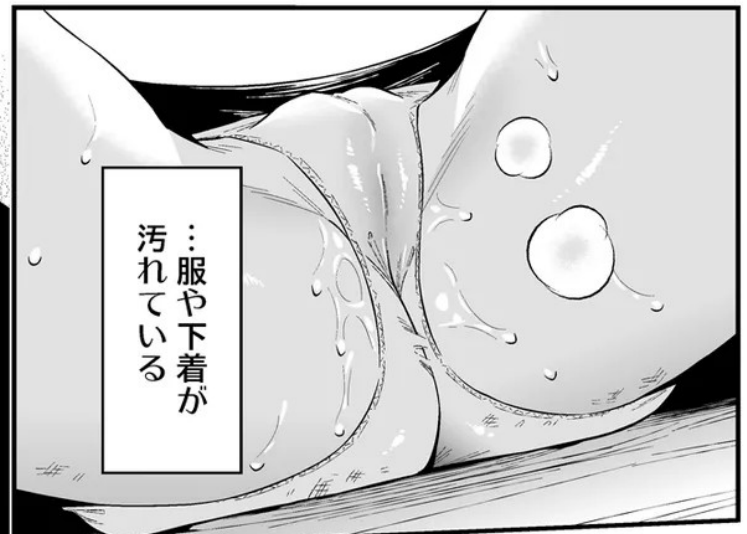
…!



暴漢に
襲われたか…?

包み隠さず
話してくれたら
よかったのに…

やはり一人で
行かせるべきでは
なかった



…服や下着が
汚れている



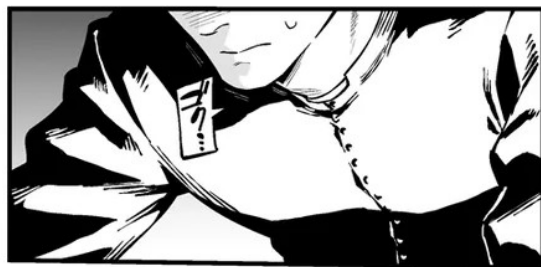
体には
擦り傷もある…





神よ…

女体に触れる
罪を犯すことを
お許しく下さい…



なんて熱さだ…



粘液が
止めどなく溢れて
絡みついてくる



やわらかく
解れていて

何の抵抗もなく
指の侵入を許す…





はっ
はっ

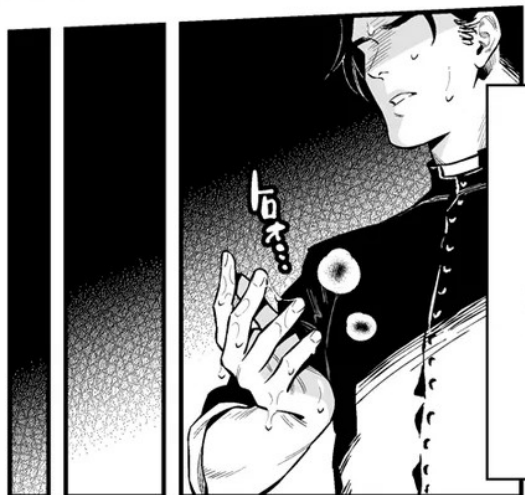
はっ
はっ

はっ
はっ

はっ
はっ

はっ
はっ

はっ
はっ



私の知っているサラは
どこにもいない……

……もう



はっ
はっ

はっ
はっ

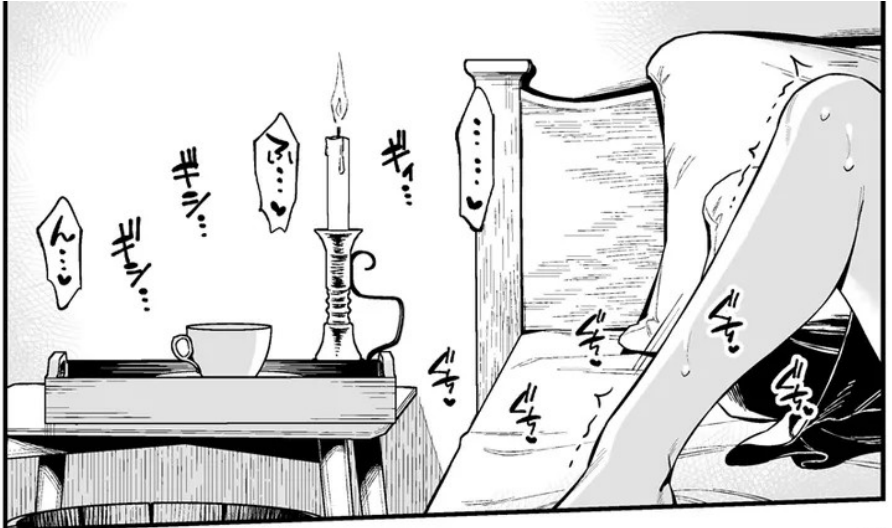
はっ
はっ

はっ
はっ

はっ
はっ

はっ
はっ

はっ
はっ





神よ…

どうして
このような試練を
与えるのですか



この身を
切る思いも
報われないのなら



本懐を遂げて
しまおうか



いっそ
聖職者である
ことなど忘れて

ただの
男と女になって



私まで外道に
身を落としてしまう...

だめだ...
それだけは...

...いや.....
薬を盛ってまで
姦淫してる私も

同じ穴の貉だ

